

令和6年度（2024年度）
「中学校給食に関するアンケート」調査結果

令和7年（2025年）2月

令和6年度（2024年度）「中学校給食に関するアンケート」

【実施目的】

令和4年度（2022年度）2学期より市立中学校で、全員給食を開始したことから、今後の事業展開や献立作成の参考とするため、生徒・保護者・教職員の意見をアンケートにより調査するもの。

【対象者】

豊中市立中学校に在籍する生徒、保護者、教職員

【調査時期】

令和6年（2024年）10月

【調査方法について】

オンラインによるアンケートを実施

保護者には、コドモンで周知及び依頼

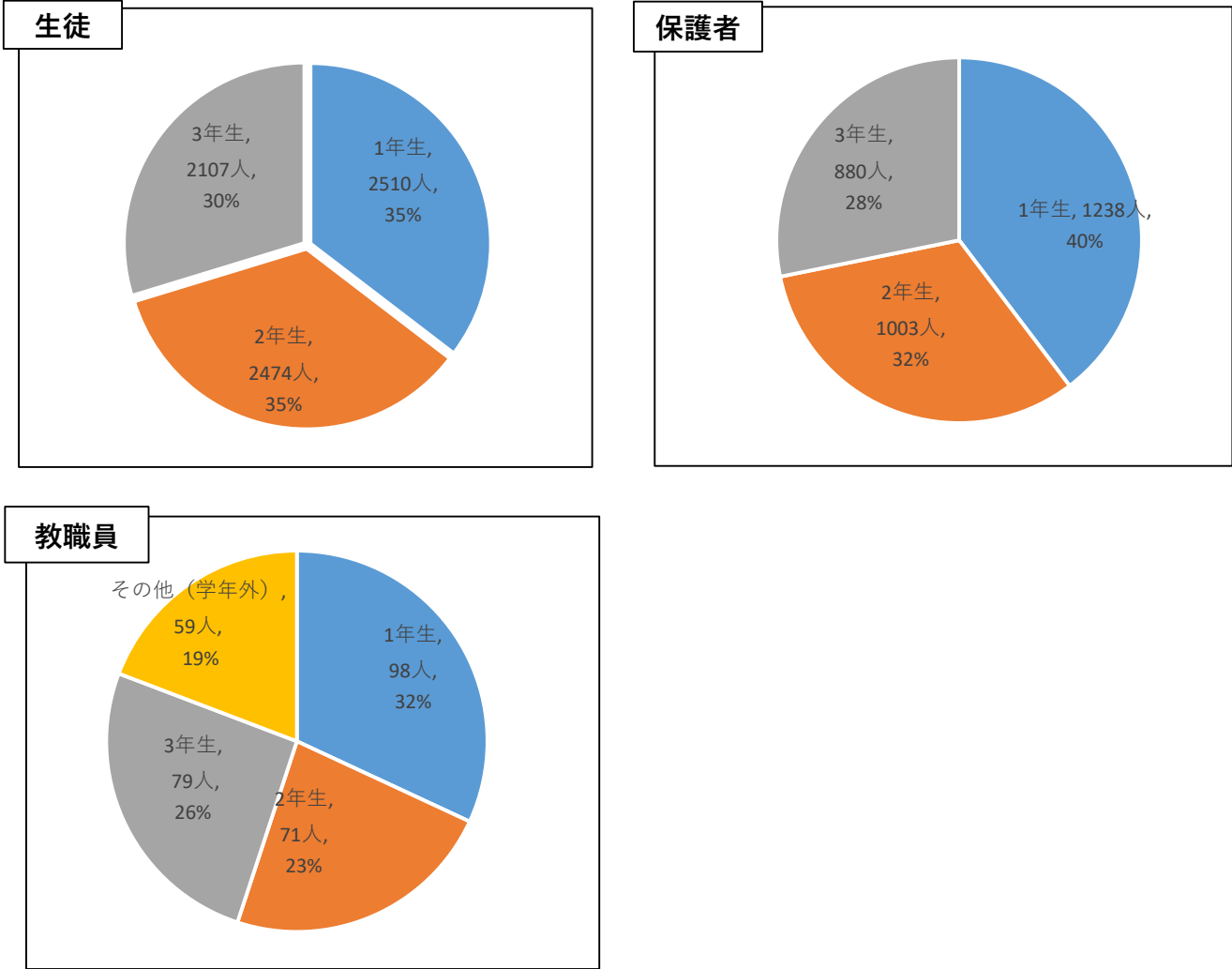
【回答率】

対象者数と回答数

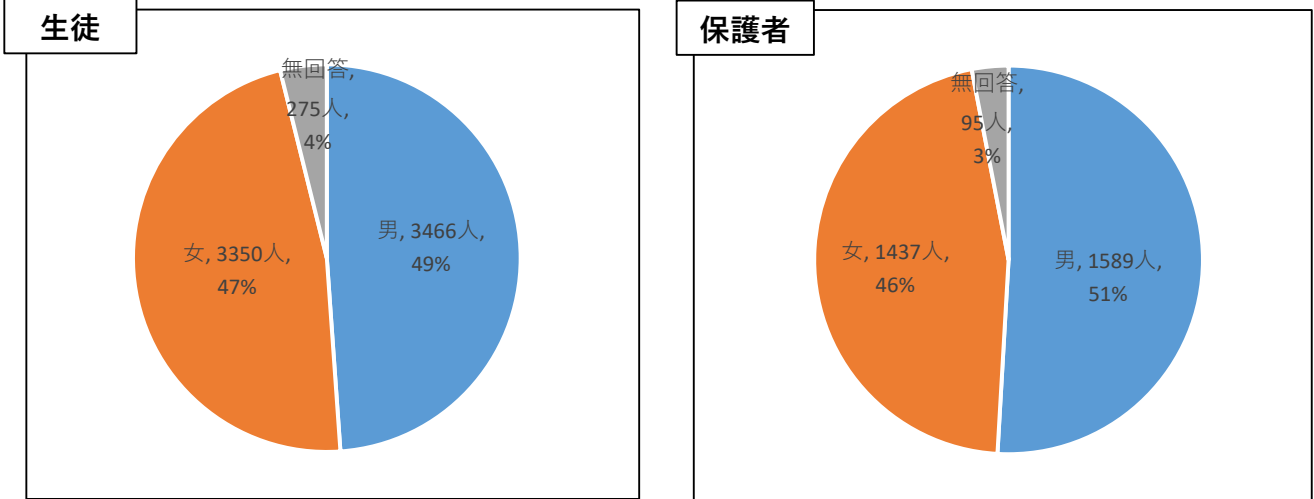
	生徒	保護者	教職員
対象者数	9,912人	※4,924人	750人
回答者数	7,091人	3,121人	307人
回答率	71.5%	63.3%	40.9%

※保護者対象者数は、コドモンで案内を送付し、既読になった人数を記載

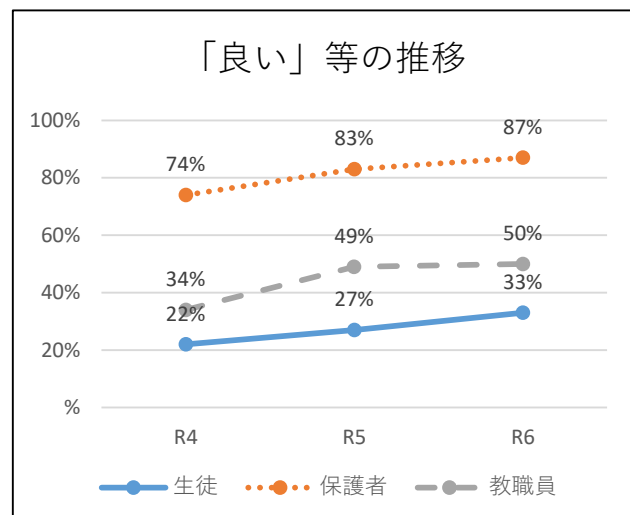
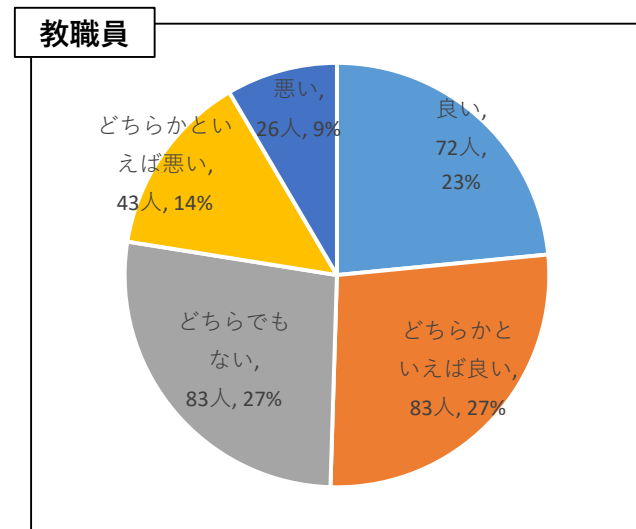
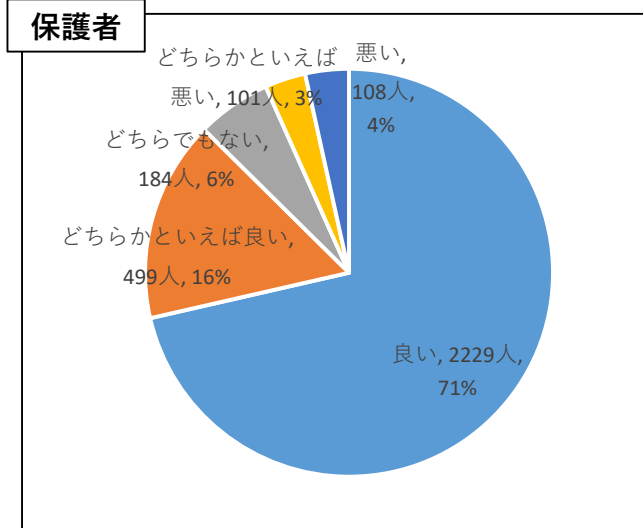
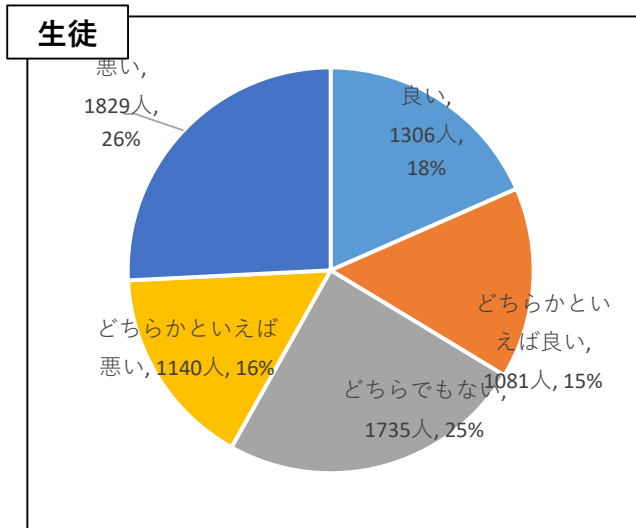
1 回答者の所属している学年(こどもの所属している学年)



3 性別(保護者はこどもの性別を記入)※教職員への質問はなし



4 全員給食になって良かったですか



○生徒は「良い」「どちらかといえば良い」が、33%、「悪い」「どちらかといえば悪い」が42%という結果であった。「どちらでもない」が、毎回約25%程度となっていることから、徐々にではあるが、評価が上がってきていることが分かる。

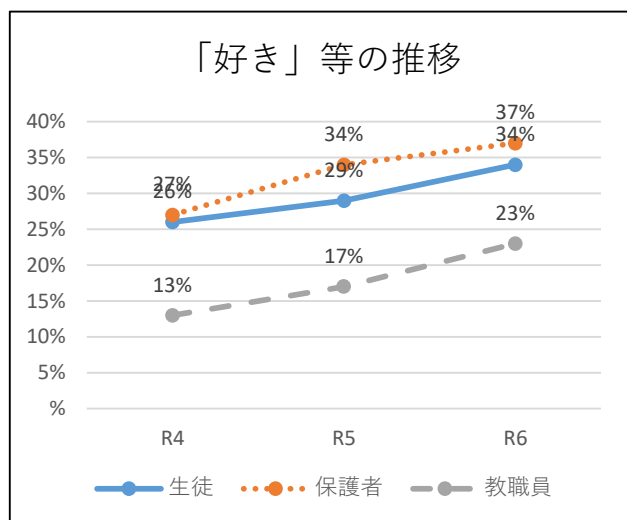
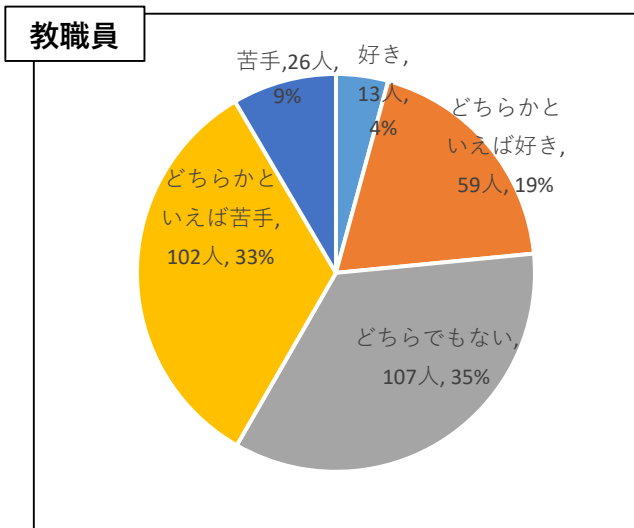
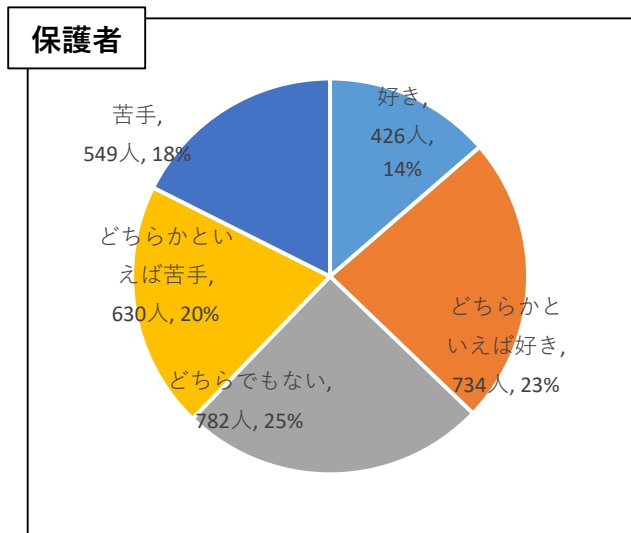
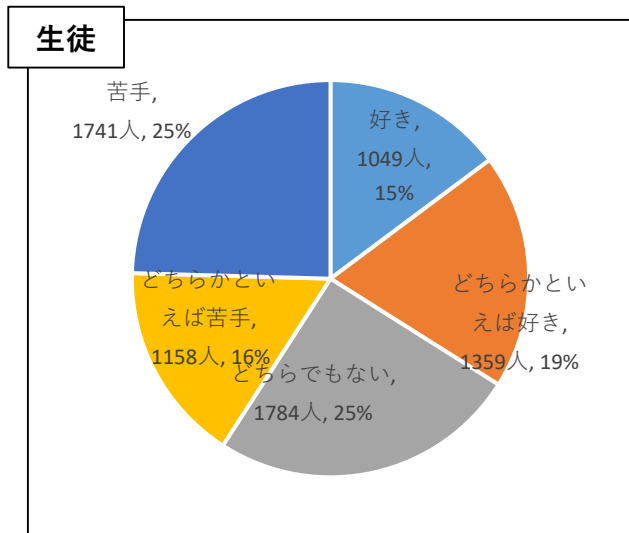
○保護者は「良い」「どちらかといえば良い」が87%となっており、前年度の83%から、さらに高い評価となっており、この数値を維持できるようにすることが必要である。

○教職員においては、「良い」「どちらかといえば良い」が、50%、「悪い」「どちらかといえば悪い」が、23%となっている。こちらも前年度と比較すると、それぞれ「良い」「どちらかといえば良い」が、49%、「悪い」「どちらかといえば悪い」が、25%であったことから、評価が少しではあるが上昇している。

○全体をとおして、評価は上がっているが、生徒の評価が特に低いことから、アンケートの結果を参考にし、引き続き改善を行う。

5 給食が好きですか

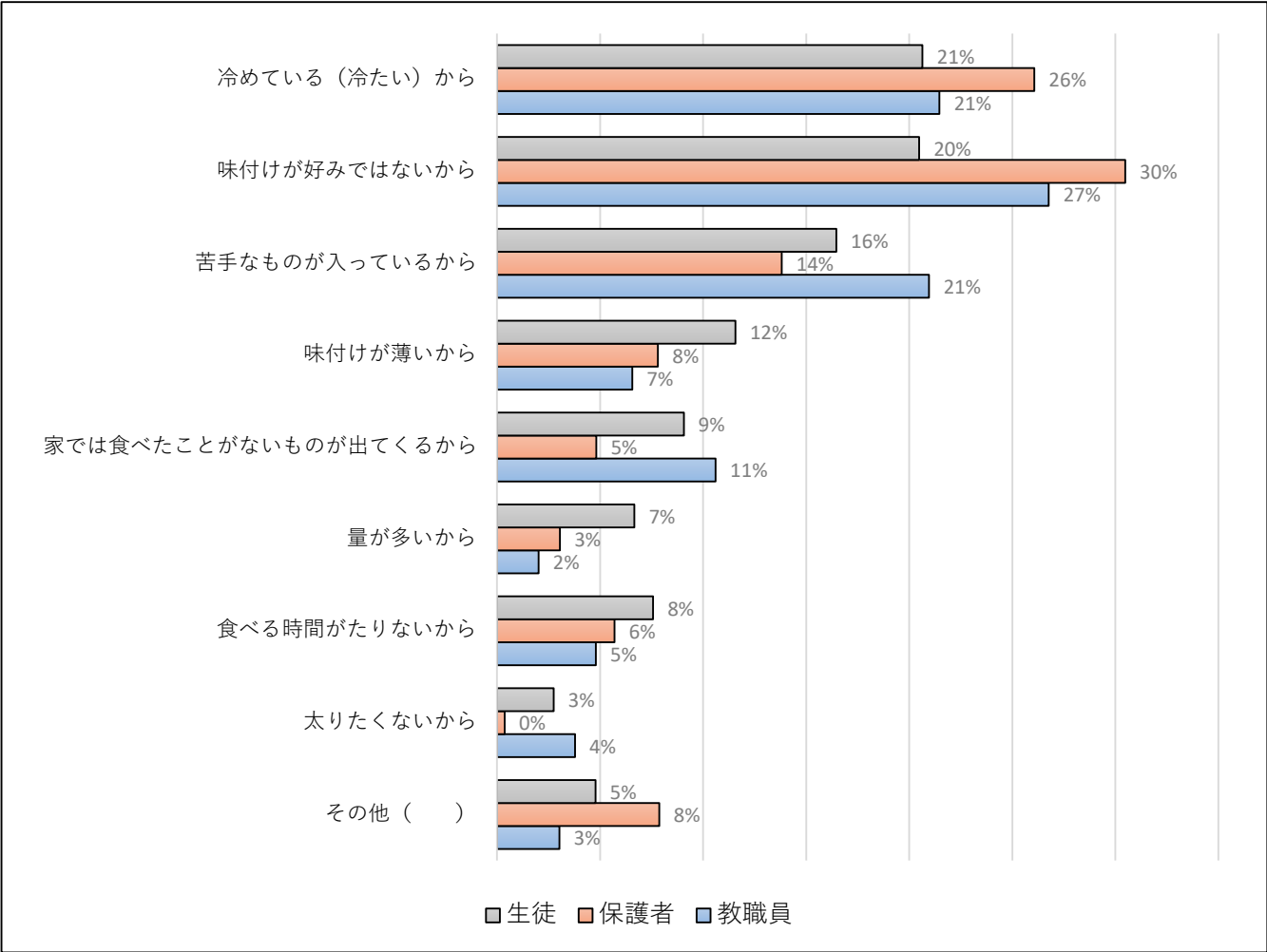
※保護者は、「お子さまは給食が好きですか」
 ※教職員は「生徒は給食が好きですか」



○生徒・保護者・教職員、ともに「好き」「どちらかといえば好き」の結果が前年度より若干増となり、「苦手」「どちらかといえば苦手」の割合が減少している。

○全体的にみて、「苦手」「どちらかといえば苦手」の割合が、40%前後でそろっていることから、約60%が「好き」「どちらかといえば好き」「どちらでもない」となっており、半数以上が苦手意識なく、給食を喫食していることがわかる。

6「どちらかといえば苦手」「苦手」と答えた人にお伺いします。
「どちらかといえば苦手」又は「苦手」を選んだ理由を記載してください。【%】



○生徒において、「冷めている（冷たい）から」が1番目の理由になっているが、安全な温度でランチボックスを届けるためには、冷たい状態で配送を行う必要があり、この部分についての改善は難しいが、食缶で提供しているものは、できるだけ温かい状態で提供できるよう、改善の必要がある。

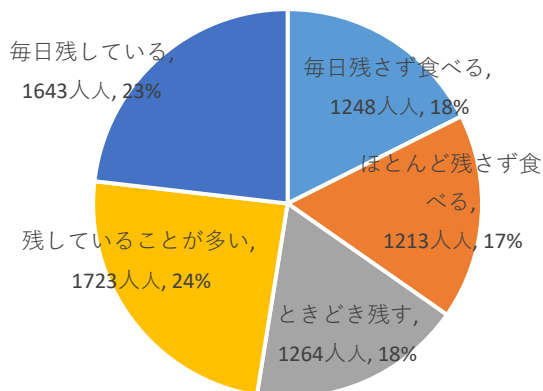
○「味付けが好みではないから」が2番目の理由となっており、「味付けが薄いから」も4番目になっていることから、味付けの改善を求められている。

7 給食を全部食べていますか

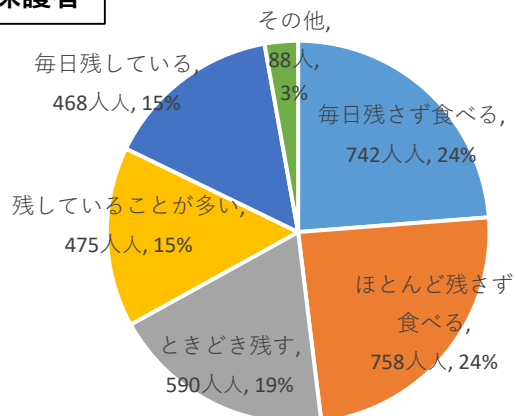
※保護者は、「お子さまは給食を全部食べていますか」

※教職員は「生徒は給食を全部食べていますか」

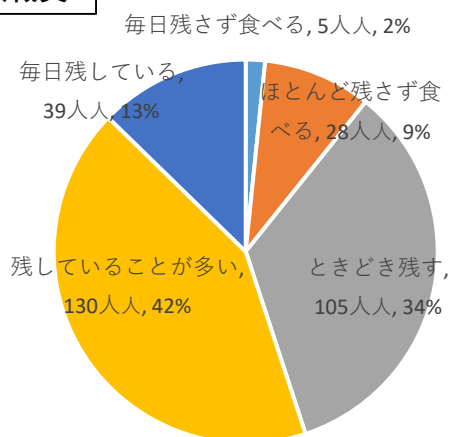
生徒



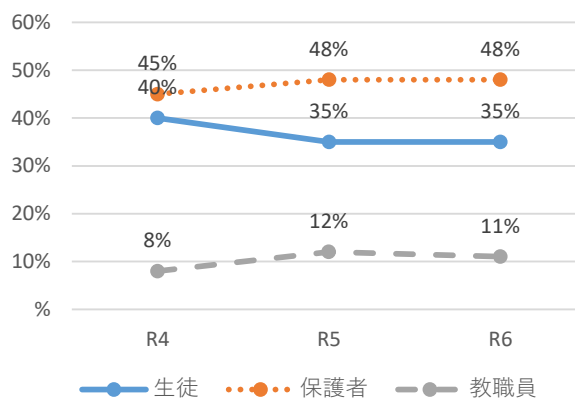
保護者



教職員



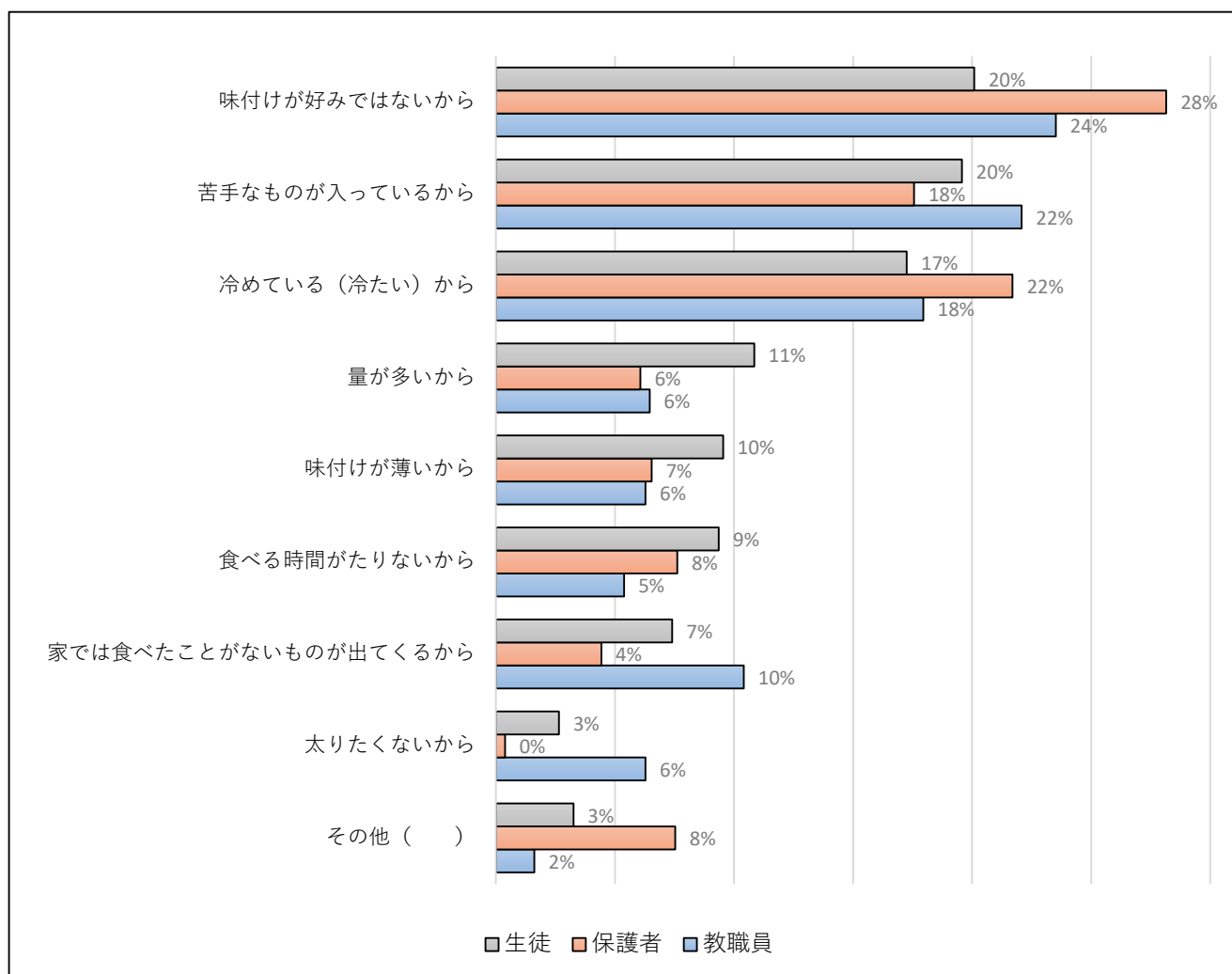
「残さず食べる」等の推移



○生徒における「毎日残さず食べる」「ほとんど残さず食べる」の回答は、35%となっており、前年度と同じである。

○変わらず残食が多いことから、味付けや献立などの改善と合わせて、食育を推進し、少しでも多く食べてもらえるようにする必要がある。

8 「残していることが多い」「毎日残している」と答えた人にお伺いします。
給食を残す理由は何ですか(複数回答可)【%】



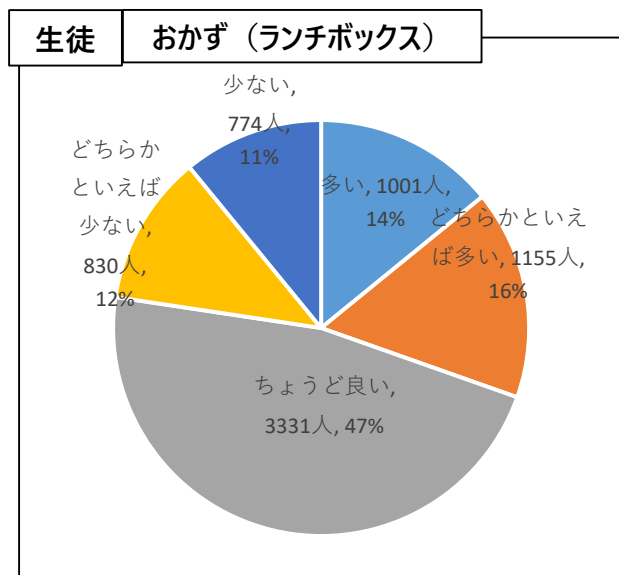
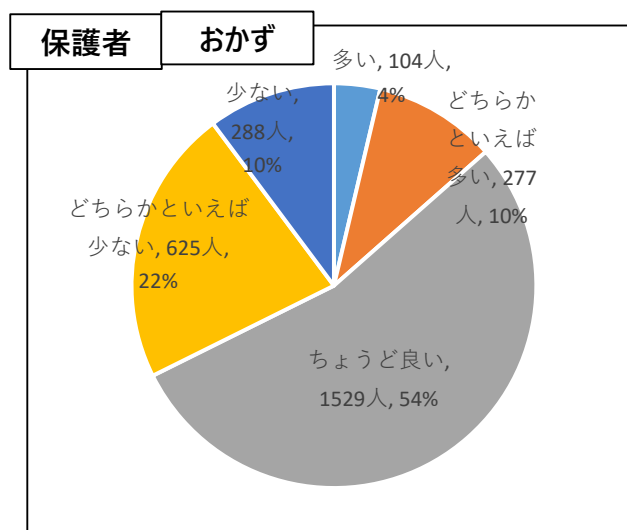
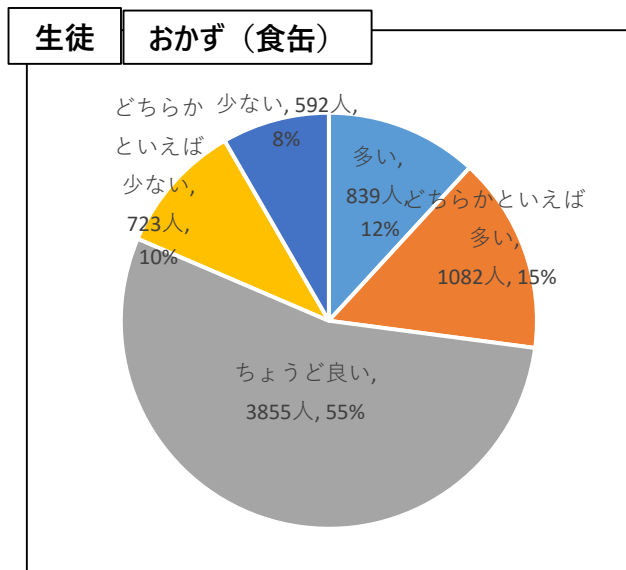
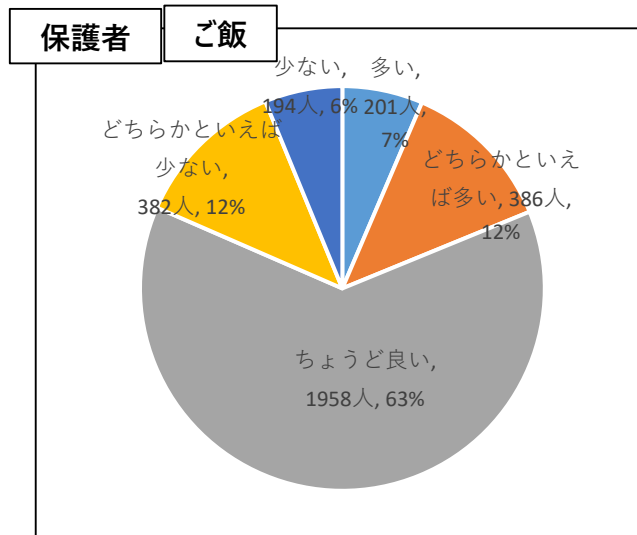
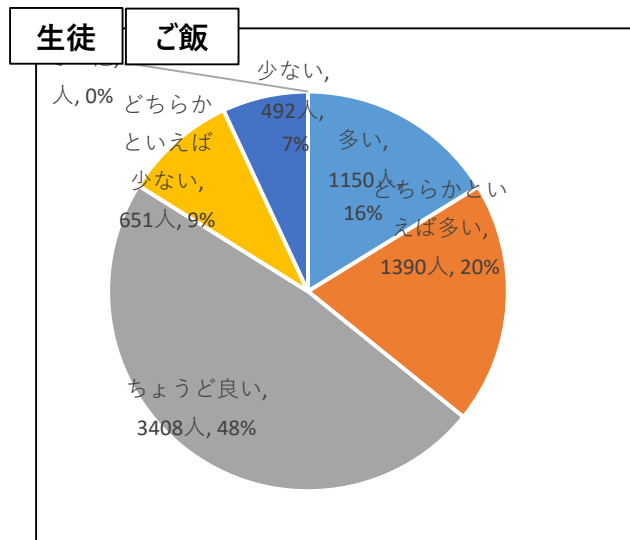
○残している理由は「苦手な理由」と異なり、生徒の1番目の理由は、「味付けが好みではないから」となっており、続いて「苦手なものが入っているから」、「冷めている (冷たい) から」となっている。

○「食べる時間が足りない」という回答が6番目にあるが、教職員は「昼休みの時間が確保できない」という意見が多く、喫食時間の確保が課題である。

9 量はどうか

※保護者は、「お子さまに給食の量はどうか」

※教職員は「生徒にとって量は適当ですか」

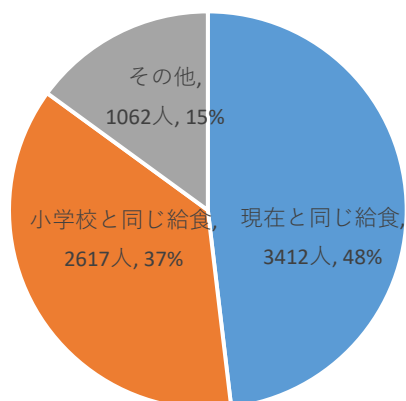


○生徒の結果では、約30%が多いと回答している。この数値は前年度と比較すると下降傾向にあるが、少ないと回答している生徒の数値が約20%と上昇していることから、約半数の生徒が適量ではないと感じている。

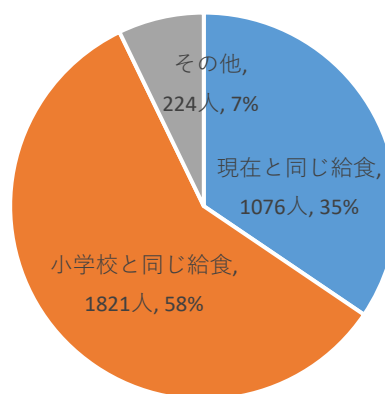
○保護者は、生徒と比較して、おかずが少ないと感じている。

10 どのような給食がいいですか

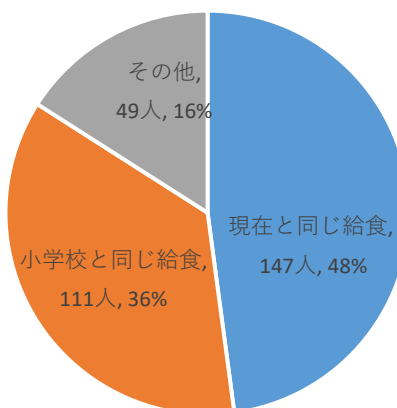
生徒



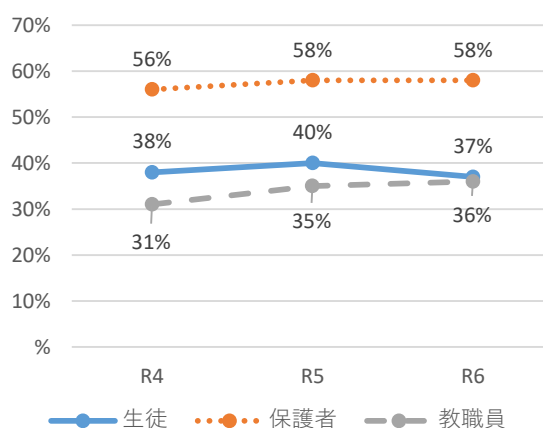
保護者



教職員



「小学校と同じ給食」の推移



○生徒は昨年度減少していた「現在と同じ給食」が増加しており、「小学校と同じ給食」を希望する回答は減少している。同様に「その他」として、お弁当や選択制を希望する回答も減少している。

○保護者は「小学校と同じ給食」を希望する回答が昨年度と同じ58%となっており、調査当初から「小学校と同じ給食」を希望する回答が多い。

○教職員では「現在と同じ給食」と「小学校と同じ給食」の両方が増加しており、「その他」が減少している。

まとめ

給食への満足度は徐々に高くなってきているが、苦手・残している理由については、開始当初から変化がなく、献立の改善や、食育の必要性を感じる。

量について、「ちょうどいい」と答えている生徒以外は、「多い」「少ない」それぞれの意見にわかれており、量の調節についての課題がある。

上記の課題、「冷めている」や、「量の調節」などの問題の解決のため、全てのおかずを食缶で提供する方向で進めていく。

今後も、定期的にアンケートを実施し、結果を参考に献立の改善や、食育を進め、満足度の高いものにしていく必要がある。